

スマホ・PCで動画公開

9日全面公開

大槌町の東日本大震災の犠牲者の行動を再現したデモ動画は、パソコンやスマートフォンで見られます。スマホのサイトは2次元QRコード(QRコード)からアクセスが可能です。パソコンは岩手日報社ホームページの震災特集ページ (http://www.iwate-np.co.jp/311shinsai/shinsai_top.html) からアクセスできます。9日には角度や場所を自分で操作できる特設サイトを全面公開します。



命を守る5年の誓い
とにかく逃げる 逃げたら戻らない。避難場所を逃げるはずも無い。助かるための避難訓練を。災害弱者を救うルールづくりを。

犠牲者の行動記録

③山田町、大槌町

震災5年

岩手日報社と首都大学東京の渡辺英徳准教授の研究による東日本大震災の犠牲者の行動再現からは、低地に立地した高齢福祉施設が、いかに危険か分かる。山田町の施設では、多くの入所者が逃げないまま津波襲来を迎えた。大槌町では、浸水域に戻った犠牲者になった人が多い。ここから逃げる逃げたの戻らないを徹底する必要がある。

支援必要な高齢者施設 避難に限界

地震発生時

船越地区

2 佐々木トさん(86) シーサイドから入所中。
1 内館健剛さん(64) シーサイドから入所中。
3 堂田良子さん(80) シーサイドから入所中。
5 五十嵐三典さん(80) 自宅にいた。
4 湊優子さん(74) 地震直後、孫が電話したときは家にいた。「早く逃げて」と言ったが、その後、すぐに電話が通しなくなった。
7 高橋テンさん(86) 自宅にいた。

●自宅にとどまった
●避難時支援が必要
●車で移動
●浸水域に戻った
●支援・避難誘導・公職
●男性
●女性
●の方向に移動
※「忘れられない」遺族アンケートより、年齢は当時

高台に建てる徹底を

教訓

動きを読み解く

巨大地震発生から時間が経たず、津波が押し寄せた。大槌町では、津波が押し寄せた瞬間、施設が完全に浸水域に陥った。山田町の施設では、津波が押し寄せた瞬間、施設が完全に浸水域に陥った。山田町の施設では、津波が押し寄せた瞬間、施設が完全に浸水域に陥った。

同施設では、県内の高齢者が犠牲になった。松川キミさん(81)は指定されていた避難場所(船越小)に向かっていた途中で津波に流された。

57人が犠牲になった。川キミさん(81)は指定されていた避難場所(船越小)に向かっていた途中で津波に流された。

津波襲来時

船越地区

1 内館健剛さん(64) 入所者の避難誘導をしていた。
2 佐々木トさん(86) シーサイドから入所中。
3 堂田良子さん(80) シーサイドから入所中。
4 湊優子さん(74) 民生委員で担当していた人の家の方へ行ったらしい。
5 五十嵐三典さん(80) 指定されていた避難場所(船越小)に向かっていた途中で津波に流された。
6 鈴木昇平さん(50) 経営する食料品店にいた。
7 高橋テンさん(86) 地震後、外で花壇の手入れをしていた。その後、避難するために一度家に入り、通帳などを持って逃げたと言っている。津波に遭った。
8 竹内直治さん(78) 自宅にまで津波が来ると思わず逃げずじまい。
9 鈴木昇平さん(50) 店の片付けをして戸締まり、シャッターを閉めていた。

記憶

遺族の思い

大江さん夫妻(山田) 母が犠牲 自力で逃げられた...

「母が死んだのが、母が死んだのが、母が死んだのが...」

自力で逃げる利用者を施設に誘導し、対応数を高台避難する訓練も

シーサイドから母の死を受け、災害時に地域で高齢者を支える共助の大切さを思う大江昌子さん(左)、忠信さん夫妻=山田町山田町

山田町

人口 1万5740人 (11年3月比2766人減)
死者 604人
不明者 148人
関連死 83人

大槌町中心部(左)と山田町中心部(右)の人口差が大きい。山田町は、海沿いの平地に多くの人が住んでいた。上図は浸水域内。

【調査方法】震災犠牲者の生き残りを残す企画「忘れられない」取材に協力いただいた遺族に本社記者が面談と郵送で実施。昨年11月6日から今年1月30日までに遺族1549人から回答を得て、犠牲者2135人を分析した。地震発生時と津波襲来時にいた場所が判明した1326人は避難行動を再現。遺族の了解を得た687人(男性296人、女性391人)は実名で掲載した。地図は国土地理院の航空写真を利用している。県内の死者・行方不明者は5796人。「忘れられない」では3428人を掲載している。

地震発生時

大槌町

1 阿部勝治さん(73) 地震後、いったん高台に向かった。
2 岩間五郎さん(90) 自宅にいた。
3 関静子さん(78) 自宅にいた。
4 加藤国雄さん(39) 大槌町役場にいた。
5 伊藤栄子さん(72) 自宅にいた。
6 高清水ツイさん(92) 自宅にいた。
7 小笠原裕香さん(26) 釜石市内の用務先にいた。
8 小笠原心さん(23) 消防士、非番で自宅にいた。
9 川端貞造さん(70) 自宅にいた。

津波襲来時

大槌町

1 阿部勝治さん(73) 足の不自由な隣人のことを思い出し、高台から戻った。
2 岩間五郎さん(90) 家族が促し、一緒にふれあいセンター方向に避難した。
3 関静子さん(78) ここまで津波は来ないのだから安全と、動かなかったとあられる。
4 加藤国雄さん(39) 町役場の災害対策本部立ち上げの手伝いをしていた。
5 伊藤栄子さん(72) 近所の人が避難しているのを見て、江岸寺に避難した。
6 高清水ツイさん(92) 車いすに乗って避難。ゆづりなら歩けるが、走ることなどは無理だった。大槌町の階段下に他の人たちといた。
7 小笠原裕香さん(26) 大槌町役場に帰る途中で高齢者たちの避難行動を自撮り。車から降りて誘導中だった。
8 小笠原心さん(23) 地震後、消防本部に駆け付けた。
9 川端貞造さん(70) いったん家の外に出たが、戻った。

地震発生時→津波襲来時にいた場所

川沿いと内陸 対極的

教訓

動きを読み解く

大槌町中心部(左)と山田町中心部(右)の人口差が大きい。山田町は、海沿いの平地に多くの人が住んでいた。上図は浸水域内。

焦点

「逃げたら戻るな」鉄則

大槌町中心部

地震後、せっかく避難したにもかかわらず、再び危険な地域に戻り命を落とす人が多かった。避難した後に津波が襲来した。犠牲者は沿岸地域で87%、男48%、女51%。大槌町内では津波に遭った人をみると、ほぼ同数の86%だった。

同町木匠町の阿部勝治さん(73)は、近所に住むの不便なことを心配して高台から再び低地へ戻った。岩手県内では、地震発生後に家族と離れ、津波が襲来した。犠牲者は、津波が襲来した。犠牲者は、津波が襲来した。

【調査方法】震災犠牲者の生き残りを残す企画「忘れられない」取材に協力いただいた遺族に本社記者が面談と郵送で実施。昨年11月6日から今年1月30日までに遺族1549人から回答を得て、犠牲者2135人を分析した。地震発生時と津波襲来時にいた場所が判明した1326人は避難行動を再現。遺族の了解を得た687人(男性296人、女性391人)は実名で掲載した。地図は国土地理院の航空写真を利用している。県内の死者・行方不明者は5796人。「忘れられない」では3428人を掲載している。